

# 都留市パブリック・コメント制度 意見募集結果

案件名： 「都留市農林産物直売所基本計画（案）について」

意見提出期間： 平成27年2月2日～平成27年2月23日

結果公表日： 平成27年3月11日

意見等の提出件数： 提出者 2名、提出件数 11件

意見等の受付方法： 持参 名、郵便 名、FAX 名、メール 2名  
件 件 件 11件

意見等の内容	件数	市の考え方
<p><b>【差別化】</b> 県内にすでに20箇所程度ある道の駅との差別化も大切だと思います。ビジネス感覚を大切にして先端の技術や、発想の転換をしていく必要があると思います。農家、運営、地元住民、観光客などそれぞれが求めるニーズに応え、新しい提案をしていける施設運営が大切だと思います。</p>	1件	<p>基本計画の中で、全国からの集客が図れる施設や、農業所得の向上、6次産業化の促進、高齢者等の生きがいづくり、また、都留市の様々な情報を発信する施設など、9つのコンセプトを掲げ施設整備を図っていくこととしています。</p> <p>直売所施設を中心に、憩いのスペースや、その周りに体験農園、観光農園等のエリアを配し、市内外から人々が訪れる魅力ある施設を目指していきます。</p> <p>今後、全国の直売所の状況を把握しているアドバイザーを招きご指導いただく中、生産者部会、6次産業化部会、商工部会等の出品者組織を構築し、高度な専門的な知識経験や優れた識見を持ち合わせた臨時職員を広く公募し、直売所開設に向け準備を進め、多くの皆様方からご意見をいただく中で、施設運営を図っていくこととしています。</p>
<p><b>【情報発信】</b> 現在社会においてのPRでは紙媒体だけでなく、ホームページ、YouTube等、SNS、ラジオ、ネットラジオなども重要かと思います。</p> <p>一つ提案なのが、ネットラジオの施設を作ってみたら面白いと思います。6畳程度のスタジオ空間と、放送用の機器は必要になりますが、情報を発信する機会を自ら持つことで、能動</p>	1件	<p>施設の魅力を発信する手段として、紙媒体だけでなく、ソーシャルネットワーキングサービスなどを利用することは、市としても重要と考えています。</p> <p>ネットラジオによるPR等について、非常に斬新なアイデアであり、これから新たな直売所として全国へ発信していくには、そのような固定観念にとらわれない柔らかな発想が大切だと思いますが、農林水産省の助成事業を受けて事業を進めるため、一定のルールの下、施設整備を図る必要がありますので、今回の基本計画には盛り込めないことを、ご理解をお願いします。</p>

<p>的な PR が可能になります。また、地域の人々にも一定のルールの中で機材を使用できるようにすることで直売所自体に関わる人を集められる可能性があります。若い世代 10 代～20 代はとくにそういったことに興味があるのではないかと思います。</p>		<p>ただし、施設開設後の利用状況や運営状況により、施設機能の拡張ができるスペースを確保することとしています。</p>
<p><b>【周りの力を借りる】</b> 直売所に関わる人は主には野菜の生産者と運営スタッフかと思えます。そういった方々だけで、イベントをやっていくにはマンパワー的に限界があります。 そこで、提案ですが、広場を設けてイベントを行ってもらうのはいかがでしょうか。地域の祭りや、フリーマーケット、軽トラ市、各団体の企画、学生の企画、出店など PR をしたい団体、企画、個人などは日常的にあるかと思えます。他からの力を積極的に受け入れることで、活性化につながると思えます。</p>	<p>1 件</p>	<p>基本計画の中で、憩いの広場の整備が盛り込まれており、来訪者の休憩や、イベントを楽しむ野外スペースとして、また、災害時の一時避難場所として位置付けています。 ご意見にもありますフリーマーケットや野菜の収穫祭など、全国で成功している直売所では、毎月開催されているようでありますので、直売所に携わる方々からの声を聞き、アイデア満載のイベントを積極的に開催し、9 つのコンセプトの最終目的であります「都留市の活性化」を目指していきたいと考えています。</p>
<p><b>【コミュニティとして】</b> 農家の情報交換のコミュニティとしての役割も大切だと思います。気軽に立ち寄れる環境をつくってもらえるとありがたいです。 また、女性・主婦・学生なども巻き込んで名物料理などの検討会を定期的実施していくことも価値があると思えます。</p>	<p>1 件</p>	<p>直売所を、活気がり、賑わいのある施設にしていくには、市民から愛される場所にしていかなければならないと考えています。今後、多くの市民に携わってもらえるように事業を推進していきます。 名物料理につきましては、施設内に、地元の食材を生かし、郷土料理、伝統食などを提供する 仮称 農家レストランを整備することとしています。地元の特徴のある野菜を使うなどして、名物料理により、都留市の恵みを PR していきたいと考えています。また、6 次産業化を推進し、地域の特徴を活かした特産品づくりも推進していきます。</p>

<p>【リニア見学センター 周辺としての特徴】</p> <p>現在、リニア見学センターには食事をとれるところがありませんので、一定のニーズがあると思います。ただし、観光バスのコースでは、甲府方面、富士五湖方面のいずれかで食事をとっていると考えられることから、短時間で食事をとれる出店、テイクアウト、軽食などのニーズもかなり高いのではないかと思います。</p>	1 件	<p>基本計画の中で、仮称 農家レストランの整備を掲げており、都留市の特色ある野菜などを使った料理を提供することとしています。</p> <p>今後、商工部会の中で検討を行う中、イベント広場において、多種多様な出店を行うなど、訪れる方に飽きさせない食を提供していきたいと考えています。</p>
<p>【参画してもらえ方を増やす】</p> <p>現在、農業を専業で行い、生計を立てるのはかなり難しいと思われまます。これが若い世代が農業を行いにくい理由の一つです。そこで、「副収入」「健康」「教育」ということを絡めながら若いファミリー層にも農業に関心をもってもらう取り組みが必要だと思ひます。若い人の参画は、10 年先を考えた場合に必須だと思ひます。</p>	1 件	<p>現在、幅広い年齢層に参加いただく中、農業技術向上講習会を毎月開催しています。直売所運営に一番重要なことは、野菜などの卸しを行う生産者の育成であり、市では多くの方に直売所の生産者としてご登録いただき、直売所に来場される方が、都留市の恵みを味わい、感動し、満足していただける施設を目指し事業展開を図っていきます。</p>
<p>【今後のトレンド】</p> <p>富士山方面を訪れる外国人観光客は今後いっそう増加することが見込まれます。バスツアーに組み込んでもらえるような取組も必要になってくるかと思ひます。その際にも「富士山ブランド」というものは、かなりのネームバリューがあると思ひますので、有効に使うべきだと思ひます。</p>	1 件	<p>基本計画の中で、東京方面から訪れる観光客を取り込むために、世界文化遺産であります富士山及び富士五湖周辺を含めたエリアとして、本直売所を位置付けています。</p> <p>また、平成の名水百選に選ばれました「十日市場・夏狩湧水群」内に流れる富士山湧水で育った、水かけ菜や水ネギを特色のある農産物として活用していくこととしています。</p> <p>今後、ご意見にあります「富士山ブランド」を活用した都留ブランドを模索していきたいと考えています。</p>

<p><b>【農家の所得を増やす】</b></p> <p>今までこの地域の農家は自家消費、知人等にあげる、農協に卸すという選択肢が大半だったかと思います。直売所ができることで直接的な販路ができ、所得の増加も見込めます。</p> <p>ただし、農家の所得を上げるという目的では、他の収入源を持つことも有効な手段だと思えます。販路をもっている企業へ卸すことなどで、安定的な収入増加が見込めるかと思われまます。こちらは、少品目の生産に注力すれば、短期間で地域の名物野菜を作り出すことにも結び付くと思います。</p>	1 件	<p>現在、建設予定地近くのは場において、つる野菜ブランド化事業を立ち上げ、都留市産の名物野菜などを発掘するための事業を行っています。</p> <p>市では限りある財源を有効に活かし、「夢かなう都留市」の実現に向け4つのコンセプトを掲げており、その第1のコンセプト「創ります 豊かな産業のあるまち」の中で、重点施策として「特徴ある農業の構築と人材育成」を目指しています。直売所施設は、安心安全な農産物の生産、持続可能な農業経営の実現に向けた本市の農業振興の核となる施設を目指し構築するものであり、農業所得の向上が図れるように推進していきます。</p>
--	-----	---

<p>1.地域農業の課題</p> <p>1)農産物を持ち込める場、集客の場づくり(報告書 2 ページ)</p> <p>農業をする若者は確かに減っていますが、都留市だけではありませんが、東部地域の若者は農学系の大学に進学する傾向は稀です。私は、違った角度で農業の勉強をしたく、農学系の大学に進学しました。結局、私も都留市には戻らずに、東京の食品会社に就職しました。進学しても、農業を主としていない都留市に若者は寄り付きません。若者の現状をよく考えるべきです。否定的な事を記載しても何も始まりません。</p>	1 件	<p>農業従事者・農業法人・森林組合・大学農業サークル・きらめき女性塾、また、県農務事務所職員・農協職員・商工会職員など多くの分野の方々にお集まりいただき、農林産物直売所建設に係る準備会を開催し、ワークショップ形式により直売所構想に対しまして、多くのご意見をいただいています。その中で、本市の農業の現状や課題、今後どのようにしていけば良いかなど熟議を行い、地域農業の課題が浮き彫りとなりました。</p> <p>最終的な結論として、農家が農産物を持ち込める場所づくりが急務であると結論付けられ、直売所構想が、本市の農業振興の起爆剤になればと考えています。</p> <p>しかし、農業に従事する若者の現状は確かに厳しく、本市においては、青年の新規就農者は数名となっているのが現実であります。今後、国の施策であります青年就農給付金制度等を活用する中、この施設が、安心安全な農産物の生産、持続可能な農業経営の実現に向けた本市の農業振興の核となる施設を目指し、農業所得の向上が図れるように推進していきます。</p>
--	-----	--

<p>5)観光会社等との連携による食の町都留市のアピール(報告書 3 ページ)</p> <p>観光会社と連携して都留市をアピールするのは如何なものでしょうか。観光会社と連携の前に、まず都留市で6次化産業を発展させる出資会社を作るべきではないでしょうか。とある自治体は、役所の中に、6次化産業を発展させる出資会社を設立し、動き始めています。その自治体は、首長が社長となり、職員も出向という形で会社に参加したり、外部からも人材を採用し、会社運営を行っています。また、首長が会社を立ち上げるにあたり、職員もやりたいという希望が多かったという話を聞いています。</p> <p>現段階で、都留市役所の若者職員(20~30歳代)はやりたいと言っている方はいるのでしょうか？</p>	1 件	<p>本市では、6次産業化を推進するため、昨年4月より6次産業化推進助成事業を創設し、都留産農林水産物を活用した加工品の開発、販路開拓等に要する経費や、加工品の生産に必要な加工施設、販売施設及び機械等の整備に要する経費に対しまして、上限100万円の助成を開始しました。</p> <p>また、地産地消を推進するため、市内の共同直売所、生鮮食品等を扱う販売所及び学校給食センターに、市内で収穫された農林水産物を出荷している農業者などに、生産資材や供給資材、農林水産業施設宣伝資材に対しまして、上限5万円の助成制度も同時に開始しました。</p> <p>6次産業化につきましては、現在のところ、民の活力に期待する中、市の特産品づくりを進め、他とは違うブランドと高付加価値化へと転換できるように推進し、現在、建設計画のある直売所の品揃えへと繋げ、食により、本市のPRを図っていきたいと考えています。</p> <p>ご質問の、市の若手職員が6次産業化をやりたいと言っている方はいるのかという点については、現段階ではアンケートなどを実施していませんので、把握できていません。</p>
<p>6)6次産業化の推進と特産品づくり(報告書 3 ページ)</p> <p>都留市に6次化産業で作られて、普及されている食品等は無いように思えます。しっかりと現状を考えるべきです。</p> <p>2.地域農業の振興方向の検討(報告書 4 ページ以降)</p> <p>目指すものは分かりますが、実現させるにはかなり難しい課題も多く感じられます。キチンと課題をクリアしないと、農業も発展せず、逆に農業が衰退してしまう可能性があります。</p> <p>場所は大原地域で、リニア地域の近くのようなのですが、ここに</p>	1 件	<p>6次産業につきましては、現在のところ、まだ大々的に市内外へ発信するものは出ておりませんが、市の助成制度を活用する中で、地元野菜によるジェラートや、都留市産のにんにくを加工した黒にんにく等、また、都留市産のたまねぎ、にんにくなどが入ったドレッシング、富士山湧水で育ったわさびのしょうゆ漬けなどが、現在作られています。他にも、女性団体が市の特産品となる農林産物を加工するなど、直売所での販売を目指し研究されています。</p> <p>ご指摘のとおり、本市の課題をクリアしていかなければ直売所の成功はないと考えています。今後、全国の直売所の状況を把握しているアドバイザーを招きご指導いただく中、生産者部会、6次産業化部会、商工部会等の出品者組織を構築し、高度な専門的な知識経験や優れた識</p>

建設するには、正直疑問が残ります。リニアから掛け離し、農業が出来るところを検討すべきだと思います。また、ワークショップの意見も取り入れているようですが、かなりの的外れたものもありますので、どのような施設にしたいのか、コンセプトをもう一度検討すべきだと思います。

年間売上高もかなり低く設定されているため、今のままだと儲けはほとんど取れないと思われる。平成28年度にオープンさせると記載されておりましたが、現状では大変厳しく、まずは直売所・農家レストランからとか、徐々にオープンして完成形を目指さないと、この事業はやる意味が無いと思います。

見を持ち合わせた臨時職員を広く公募し、直売所開設に向け準備を進め、多くの皆様方からご意見をいただく中で、施設運営を図っていくこととしています。

大原地区に直売所を建設する構想としたのは、リニアの集客を見込むことでもあります。大原地区は30ヘクタールを超えるほ場が整備されており、直売所施設を中心に、憩いのスペースや、その周りに体験農園、観光農園等のエリアを配し、市内外から人々が訪れる魅力ある施設を目指すに相応しい、拡張性の高い場所と考え選定しています。

また、基本計画の中で、全国からの集客が図れる施設や、農業所得の向上、6次産業化の促進、高齢者等の生きがいづくり、また、都留市の様々な情報を発信する施設など、9つのコンセプトを掲げ施設整備を図っていくこととしています。